

ジフテリアにはこんな注意を

寒くなる冬、ジフテリア菌が再び活動を始める。この時期に注意を怠ると、重症化する恐れがある。本誌が調査したところ、ノドの腫れ、咳、発熱、頭痛、下痢、嘔吐、呼吸困難などが主な症状である。特に小児は、喉の腫れで窒息する危険性が高い。予防接種が最も効果的であるが、未接種者は注意が必要である。

○：注意の第一は、まず予防接種です

これはよくきくワクチンが出ており、法律で義務的に行わなければならない。このワクチンを受けた後、ノドの腫れや咳、発熱などがあれば、直ちに医師の指示に従う。また、ノドの腫れや痛みがある場合は、早急に受診すること。

○：注意の第二は、感染源の隔離

患者は隔離し、治療を受ける。また、患者の唾液や鼻汁は、適切に処理される。家族や友人は、患者との接触を避け、マスクを着用し、手洗いを行う。さらに、患者の吐物や排泄物は、適切に処理される。

○：注意の第三は、症状の早期発見

ノドの腫れ、咳、発熱、頭痛、下痢、嘔吐、呼吸困難など、上記の症状が出現したら、直ちに医師の指示に従う。また、症状が悪化する場合は、直ちに受診すること。

希望の本があつたらどうぞ

希望の本があつたらどうぞ。希望の本があつたらどうぞ。希望の本があつたらどうぞ。

- ### 盛会、だった第一回 村民卓球大会
- 第一回村民卓球大会が十二月二日、和納中学校で開かれ、盛況を博した。参加者は、男子十八チーム、女子十チーム。試合は、激戦を繰り広げ、見物した。優勝は、男子組、女子組、それぞれ異なる。大会は大成功で終わった。
- 男子第一位 長瀬 昇二 本間 文男
 - 男子第二位 大久保直樹 (役場)
 - 男子第三位 堀越 栄一 (北都青年)
 - 女子第一位 田中 清正組 (和納青年)
 - 女子第二位 早川 マツ子
 - 女子第三位 早川 マツ子
 - 口組 文組 (和納青年)
 - 羽生 美恵 五十嵐トミ子
 - 齋藤登洋子 (役場)
 - 宝賀サチ子 阿部五百子
 - 第三位 田中ユキ子 (間瀬中)

農薬空中撒布事業収入支出決算書

科 目	予 算 額		決 算 額		比 較		附 記
	円	円	円	円	増	減	
1. 賦課金	2,700,000	2,826,183	126,183				賦課面積1,416.3ha 1ha当り200円 未収金6,434円
2. 村費補助金	560,000	560,000					村費補助金
3. 農協負担金	240,000	180,000	60,000				予算に比し収入減60,000円は協議調停の額による
4. 雑収入		652	652				預金利息
収入金合計	3,500,000	3,566,835	66,835				
支 出							
科 目	予 算 額		決 算 額		比 較		附 記
	円	円	円	円	増	減	
1. 農薬費	1,400,000	1,558,030	158,030				岩室1,110袋 和納448袋 計1,558袋 ×(1,000円)=1,558,000円
2. 撒布料及空輸費	1,750,000	1,797,000	47,000				全日空KKへ支払額 空中撒布事業従事者労賃 (300円×延97人分)
3. 労務費	48,000	48,500	500				
4. 資材費	30,000	20,040	9,960				標旗ヘリポート設置資材費その他
5. 地上撒布費	150,000	28,750	121,250				地上撒布従事者労賃 撒布面積23ha × (10a当り125円)
6. 食糧費	25,000	24,176	824				来賓賚贈その他
7. 会議費	25,000	23,481	1,519				防除協議会、その他諸会議会場費
8. 調査研究費	20,000	17,970	2,030				事業実施に伴う調査費及資料作成費
9. 自動車借上料	20,000	20,500	500				標識設置、農薬運搬等自動車借上料
10. 印刷製本費	10,000	9,430	570				事業計画書及宣伝資料等印刷費
11. 負担金	12,000	2,000	10,000				県防除協議会会議会場費負担金
12. 雑費	5,000	1,500	3,500				和納地区防除花火代金
13. 予備費	5,000	4,600	400				村外撒布料の徴収手数料
支出金合計	3,500,000	3,555,947	55,947				
収入決算額	3,566,835円	支出決算額	3,555,947円	差引残額	10,888円		

農薬空中撒布事業収支決算について

病害虫防除作業の近代化、協業化対策の一環として、昨年七月下旬実施されました。この事業は、大成功を収めました。農薬の散布量が、予定通りであり、コストも抑えられました。また、農家の健康被害もありませんでした。今後の事業にも、このような成果を期待します。

中学校統合校舎の建設計画について

この建設計画は、現在の状況を基礎として、社会情勢の変化や産業、経済等の発展、村の財政等の将来を見直し、よりよい教育を行なうために必要である。また、物心両面から教育を充実させるべく計画されたものである。

一、中学校統合の必要性について

一、国の産業構造に対する考え方の変革から、経済界の動向、社会の動き、社会情勢の変化等に伴って、農山村においても、経済の面で考えぬ必要が多くなっている。これらの問題は、当然教育の面でもその影響を受け変化せざるを得ない。

二、小規模校と生徒指導上の問題から

中学校に於ける授業は教科担任であり、七学級の学校(教員一名)に於ける教員一人当りの負担時間は、週五時間二八時間を超す。これだけの授業をこなすためには、教員一人当りの負担は、想像を絶する。また、教員数が少なくなるため、教科の分担が難しくなる。これは、教育の質を低下させることになる。

三、通学距離の問題

文部省では通学距離の制限を定めており、小学校は二キロメートル、中学校は三キロメートルを超えてはならない。現在の状況を鑑みると、通学距離の制限を緩和し、統合校舎の建設が必要である。

四、統合による効果

一、統合により、旧村感情がなくなり、施設設備の拡充が促進される。二、統合により、教育内容の向上、教育内容の充実が期待できる。三、統合により、統合の必要性がより明確になる。

五、施設設備の面から

村財政には限りがあり、その限られた範囲での経費は、分散されてきた。統合校舎の建設により、経費が集中され、施設設備の向上が可能になる。

六、統合により旧村感情がうすらぎ

統合により、旧村感情がうすらぎ、新しい統合校舎への意気込みが湧いてくる。また、統合により、教育内容の向上、教育内容の充実が期待できる。

七、統合により、旧村感情がうすらぎ

統合により、旧村感情がうすらぎ、新しい統合校舎への意気込みが湧いてくる。また、統合により、教育内容の向上、教育内容の充実が期待できる。

別表 村内中学校生徒数学級数推計表

区 分	部	年 級	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度
和 小	小 (東)	1年	100	95	90	85	80	75	70
		2年	95	90	85	80	75	70	65
小 (西)	小 (東)	1年	105	100	95	90	85	80	75
		2年	100	95	90	85	80	75	70
間 小	小 (東)	1年	110	105	100	95	90	85	80
		2年	105	100	95	90	85	80	75
和 小	小 (東)	1年	115	110	105	100	95	90	85
		2年	110	105	100	95	90	85	80
身 長	女	1年	114.1	108.9	109.1	111.5	112.1	105.9	
		2年	111.2	109.4	108.1	109.6	108.0	110.6	
体 重	男	1年	19.0	18.3	19.1	18.4	19.1	18.0	
		2年	18.4	17.6	17.4	17.5	18.1	17.8	

※ 学級数は文部省の学級数推計調査基準による。